

1 学校教育目標

○よく考える子 ○心豊かな子 ○たくましい子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○皆の人権が守られ、生き生きと生活できる安全・安心な学校 ○確かな学力と豊かな心、健やかな体を本気で育てる学校 ○保護者・地域と連携を深め、信頼される学校
○児童・生徒像	○相手・他者の人権を尊重して、関わり合う子 ○自ら考え、自ら学び、チャレンジする子 ○すすんで体を動かし、心身ともに健康でたくましい子
○教師像	○子どもの人権を守り、児童理解に努める教師 ○日々の授業の充実を目指してチャレンジする教師 ○危機管理(最悪を考え、慎重に、素早く、誠実に、組織的に)を意識し、情報共有・共通実践していく教師集団

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

〈 現 状 〉

- 児童数355名、学級数12(全学年が2学級)。児童は明るく素直で、学習態度、生活態度ともおおむね落ち着いている。
- 児童の安全安心な校内外の生活に向けて、学校・家庭・地域の三者が連携・協働している。
- 保護者や地域の方によるボランティア活動が大きな支えになっている。(見守り、図書、農園、ホームページ)
- 学校と家庭で平時から情報を共有して関係を築くことにより、児童に関わる危険やトラブル等の未然防止・早期発見・対応に努めている。
- 本校が初任校である教員と、今年度の異動によって着任した教員は、21人中11人である。目指す学校像、児童像、教師像を共有し、指導力の向上や授業の充実(改善)に向けて自己研鑽はもちろん、学年等の教員間でも授業研究を推進している。

〈 前年度の成果と課題 〉

- 全教員がそれぞれの立場で危機管理意識をもち、協力して対応に当たることができた。
- 足立スタンダードの授業についてはほぼ全員が理解し実践している。「虎の巻」を活用した授業研究を小中連携でさらに進めていく。
- タブレット端末の利活用は全学年で取り組めた。習熟学習や撮影、調べ学習やそのまとめ、発表等、学年に応じて学習道具として扱っている。
- 校内研として全教員で算数の指導方法について授業研究に取り組んだ。4月の学力調査の結果を分析し児童の実態を基に、どんな力を身につけさせたいかを明らかにして進められた。大きな前進であった。今年度は児童と共に安心できる学級をつくり、児童がより生き生きと学習できることを目指す。
- サマースクールは全学年10日間実施できた。2学年以上では事前・事後テストを行い、効果検証した。多くの児童が得点を上げ達成感を得られた。
- 放課後の図書館開放では毎回30名ほどの参加があり好評であった。今年度は週4回に増やし、読書や本を使って調べる活動の場を充実させていく。
また、CSや開かれの予算で児童用の図鑑やブックトラックを下学年の各学級に設置できた。図書館まで行かなくても日常的に図鑑を手にする環境つくることのできた。7年度はさらに上学年にも広げていく。
- 体力向上については、外遊びの奨励や体育のボール運動、短縄跳びや持久走の強化月間等を通して、投力や走力、俊敏性、持久力が保持増進できた。一方で多くの学年で課題となったのが柔軟性である。授業の中で体づくり運動やストレッチ等、意図的に取り組ませていくことで改善を図っていく。

○学校・家庭の連携・協働により、改善、解消することのできた課題は多くあった。逆に連絡・連携が十分でなく、課題を見逃してしまうこともあった。平時から教員と保護者の連携・連絡をより密に行っていくことで、児童の学校生活の安定と成長を図っていく。

○ここ3年間、一部の学級学年の経営が安定しない事態になっている。今年度は全教員で学級活動における適切な指導の在り方を研究していく。児童の望ましい集団活動を展開し、よりよい人間関係を築いていくことにより、児童が安心して生き生きと学校生活を送ることができるよう努めていく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R5	R6	R7	R8	R9
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	体力向上	○	○	○	○	○
3	心の醸成（規範意識・自己肯定感の向上・いじめ暴力暴言の根絶）	○	○	○	○	○
4	保護者・地域との連携・協力による教育活動の充実	○	○	○	○	○
5	特別活動の充実			○	○	○

5 令和7年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン								
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)				コメント・課題		達成度 ◎○△●
2月到達度確認調査において、令和6年度の通過率を維持または向上させる。		4月区調査及び、2月到達度確認調査（通過率） 国・算の順		R8. 2. 5に実施 確認調査（通過率） 国・算の順				R6の2月結果とR7の2月結果を同集団で比較すると、現4年の算数を除き、他はすべて維持・向上した。進級により学習内容が難しくなることを考慮すれば、たいへんよい結果であった。以下に記した各アクションプランもほぼ良好に遂行できており、教員の指導と児童の努力の成果である。		◎
		2年:4月 85 85	2月 80 85	2年:4月 95 97	2月 88 92					
		3年:4月 80 85	2月 80 80	3年:4月 86 89	2月 80 84					
		4年:4月 90 90	2月 85 90	4年:4月 100 100	2月 98 88					
		5年:4月 85 70	2月 80 65	5年:4月 96 90	2月 90 85					
		6年:4月 75 70	2月 70 65	6年:4月 90 74	2月 73 75					
B 目標実現に向けた取組み										
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●	

1 継続	授業改善	全教員	通年	<ul style="list-style-type: none"> 経験5年未満及び入区1年目の教員は授業スタンダードを理解し身に付ける。(めあて、振り返り、板書等) 小中連携 AS虎の巻の理解と実践 	<ul style="list-style-type: none"> 週案 授業観察 面接 (年3回) 教員の自己評価、及び学校評価 	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価 「よい」70% 学校評価 「よい」85% 	<ul style="list-style-type: none"> 管理職による授業観察からは全教員が実践できていることを確認した。 保護者 87.6% 児童 87.3% 	各学年、校内研、小中連携それぞれの場で、児童の主体的な学びや深い学びを目指し共通実践事項を明確にして通年で取り組めた。	○
2 継続	ICT活用	全学年 全教科	通年	<ul style="list-style-type: none"> 端末活用① (検索・資料作成・AIドリル等) 端末活用② (協働学習等) 	週案 授業観察 (年3回)	<ul style="list-style-type: none"> 週当たりの利用率80% (2学年以上) 年間2回以上の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 活用①については全員が週に複数回利用させている。 活用②についてはグループスライドやスプレッドシートその他、キャンバやパドレット等のアプリを用い実践している。 	児童の深い学びの実現に向け、対話や端末活用(互いの考え等の共有)を共通実践できた。児童アンケートにより端末の利便性に児童も気付いていることが分かった。次年度は校内研究で実践共有する。	○
3 継続	少人数指導	1, 2年 算数	通年	<ul style="list-style-type: none"> 都時間講師を活用し、低学年算数においても担任+1のグループ編成で習熟度別に指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 週案 授業観察 	<ul style="list-style-type: none"> 実施率 85%以上 	実施率 90%	今後も講師の確保に努め継続を図る。	○
4 継続	読書活動	全学年	通年	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館活用年間計画の作成、実施 読書目標の設定 放課後の図書館開放 	<ul style="list-style-type: none"> 記録用個別カード 貸出冊数 週案 調べる学習 	<ul style="list-style-type: none"> 貸出冊数 年35冊/人 放課後利用 300人/月 	<ul style="list-style-type: none"> 貸出冊数は12月末時点で42冊 放課後利用は12月末時点で105人/月 	貸出数が大幅増は、児童の主体的な取組やアイデア、及び支援員の勤務日数増によるものと分析している。	◎
5 継続	夏休み 補充教室	各学年 若干名 算数	夏休み 10日間	<ul style="list-style-type: none"> 補充学習(全学年) AIドリル学習(高学年) 	実施前後で指標となるテスト実施。	<ul style="list-style-type: none"> 正答率向上 	事後の正答率向上 1, 2, 5, 6年は100% 3年は80%、4年は90%であった。	次年度も全学年10回実施を目指す。マンツーマン指導に近い体制を組むことや12中との連携協力は検討事項。	○
6 継続	家庭学習 の定着	全学年	通年	<ul style="list-style-type: none"> 目安の周知: 15分×学年 家庭学習カード 自主学習ノートの指導 AIドリル学習 	<ul style="list-style-type: none"> 左記カード 学校評価 	<ul style="list-style-type: none"> 宿題定着 90% 自主学習定着 80% 	児童67% 保護者67%	学力の定着と学習調整力を育成するために家庭学習の大切さを、児童、保護者と共有していく。次年度アクションプランからは外す。	△

重点的な取組事項－２		体力向上			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
体力調査において昨年度記録を上回る 縄跳び旬間や、持久走旬間、外部講師 招聘による運動機会の実施		<ul style="list-style-type: none"> 記録の向上：１００％ 体力向上の取組：１００％実施 	<ul style="list-style-type: none"> 体力調査記録は２年以上男女とも全学年で向上。特に５，６年男子と４年女子は７ポイント以上、５年女子は８ポイント以上伸びた。 体力向上の取組は年間計画に基づき実施。持久走は前年度の記録を提示した。 	今後も児童一人一人が体力テストの際にめあてをもって取り組めるよう、前年度の記録を提示する。 縄跳びや持久走等の取組旬間の際には結果だけでなく過程を重視する。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
基礎体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 全国体力調査８種目の記録について昨年度の自己記録を全児童が更新する。 縄跳び旬間や持久走旬間の計画実施 外部講師を招聘し運動機会をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育指導の充実（年間計画に基づく授業実践） 縄跳びカード、投力強化、持久力強化実践 スポーツ指導ボランティア 外遊びの励行（休み時間） スポーツ推進委員の招聘 	体力調査の平均得点 ２年男：＋４.２ ２年女：＋３.６ ３年男：＋３.８ ３年女：＋４.８ ４年男：＋４.６ ４年女：＋７.７ ５年男：＋７.２ ５年女：＋８.５ ６年男：＋７.３ ６年女：＋４.１	体力テストは今後も測定方法を事前に研修したうえで指導に当たる。 どの取組についてもめあてをもち楽しく取り組んでいけるよう指導改善を図る。 外部講師については今の教育活動により合う内容や方法を再検討する。	○
生活習慣の確立 学校保健行動計画の実施	学校評価 「よい」８５％以上	<ul style="list-style-type: none"> 保健便りの活用、学級指導 歯の指導（全学年） 虫歯受診率９０％ 	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣「よい」８８％ 学校保健行動計画により実施 虫歯受診率８５％ 	行動計画に基づき適正に取り組めた。特に歯科指導においては保健センターや校医と、薬物防止では学校薬剤師と、それぞれ連携することができた。	○

重点的な取組事項－3		心の醸成（規範意識・自己肯定感の向上・いじめ暴力暴言の根絶）			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
他人を思いやる気持ちや共に助け合っ て生きようとする態度の育成		教員と保護者の 学校評価「よい」90%	保護者 90.2% 児童 83.4%	全学級が崩れることなく、児童 が落ち着いて生活できている。 このことが何よりの目標に迫 った根拠であると考え。また、 数値でも保護者90%であつた。 達成基準には当初明記しな かったが、児童アンケートにお いても「クラスの皆は互いに助 け合っている」について83%が 肯定的評価であつた。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
規律の徹底 よい子のきまり 授業規律	・学校評価「よい」 保護者85% 教員80%	・看護日誌、生活指導朝会 ・全教科授業を通して指導 ・教職員による評価	保護者88%	年間通して毎週1回児童の生 活指導に関わる情報を全教員 で共有する場を設けた。また、 実態に応じた週目標を柔軟に 設定し全員で指導にあつた。 大きな事故やいじめ等の防止 にもつながつた。	○
いじめの根絶 いじめをしない、許 さない心、傍観者に ならない	・いじめの解消率100% ・新たな重大事案ゼロ ・学校評価「よい」 保護者90% ・必ず取り組む18項目 の実施	・全教員情報共有（週1回） ・いじめアンケート（年3回） ・迅速な校内委員会による対応及 び継続指導の実施。 ・基本方針の周知（6月まで） ・校長講話（年10回）	・いじめ解消率100%（経過観察中を 除く） ・重大事案は12月末時点で0件 ・いじめ防止 82% ・相談対応 93%	いじめ対策委員会を月例の他 に、認知した際には臨時で行 い、早期対応を図つた。 基本的には管理職の指導の下、 最低でも学年2人と生活指導 主任で対応にあたるようにし た。複数であたることで役割分 担もでき、担任が抱えてしま うことなく早期対応をすすめる ことができた。また、結果とし て重大事案に膨らんでしま うことを防止できた。	○

道徳授業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導計画に沿った実施 ・ 道徳授業の公開 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画に基づき授業を行い、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育成する。重点は、低は「礼儀」「生命の尊さ」「友情、信頼」、中は「友情、信頼」「生命の尊さ」、高は「個性の伸長」「相互理解、寛容」「生命の尊さ」 ・ 外部講師の招聘 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間指導計画に基づき実施 実施率は全学級 100% ・ 道徳授業地区公開 1月23日 ・ 人権お話し会 2月9日 (4～6年) 	年間指導計画に基づき実施した。	○
------	---	---	---	-----------------	---

重点的な取組事項－4		保護者・地域との連携協力による教育活動の充実			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
保護者、地域人材との連携 あいさつの習慣化 (CS 重点目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間を通じたあいさつ運動 ・ 学校評価「よい」85% 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間を通して実施 ・ 保護者 77% 	<p>保護者、地域（ボランティア、開かれ等）、児童により年間通して実施できた。</p> <p>「あいさつや正しい言葉遣いを身に付けている」に対し、保護者の肯定評価は 77%であった。</p> <p>実際にあいさつのできない児童はいない。正しい言葉遣いも意識させれば遣える児童は多い。しかし、日常生活の中では十分にそれを発揮できてはいない場面が見られる。児童に一層意識付けさせ、実際の生活の中で定着させていく。</p> <p>次年度の達成基準は「あいさつの習慣化」を焦点化せず、連携協働事業そのものができたかどうかを達成基準にする。</p>	△	

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
学校運営協議会及び開かれた学校づくり協議会の開催	<ul style="list-style-type: none"> ・年7回 ・年3回 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会による学校経営計画の承認、あいさつ運動、学習支援、学校評価 ・開かれた学校づくり協議会による学校関係者評価作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会5回(12月末)2,3月に1回ずつ実施予定 ・開かれは1回実施。2,3月に1回ずつ実施予定 	協議会を通し、経営方針や実態を伝え評価していただいた。またインセンティブ予算を運営に活用することができた。大変にありがたい。	◎
保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画により実施 ・平時であっても児童の様子を個別に伝える。(月1回、年10回程度) ・PTA行事の参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の公開(月1回) ・担任と保護者の情報共有を日常的に連絡帳で行う。 ・PTA総会及び夏のイベントに全教員が参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・6月、10月の公開週間の他に9日間実施 ・全担任が平時連絡を実施 ・児童の様子を知らせるブログ配信はほぼ毎日実施 ・総会と夏のイベントに参加 	保護者と教員の連携協力関係はおおむね良好に築くことができていた。年間の授業公開数は十分に設定した。平日が多いため前年度末には全日程を周知した。平時に保護者へ個別にお子さんの様子を連絡できた教員は多くはなかった。回数にこだわる利点を教員に十分理解させることができなかつたことは課題であり、今後も繰り返し教員へ伝えていく。	○
あいさつの習慣化(CS重点目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価「よい」90% ・学校評価「よい」85% 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会あいさつ運動の継続 ・情報の発信の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して取り組んでいる。 ・保護者評価 77% 	A欄のとおり	△
交通安全、防災支援 ・交通安全ボランティア ・避難所運営	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の登校の見守り ・安全指導の実施 ・交通事故ゼロ ・災害時円滑な避難所運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全教育年間計画の作成、実施 ・教員とボランティアと保護者の三位一体の見守り(通年) ・地域防災との連携マニュアル 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に基づき実施 ・三者一体の見守り実施 ・11月に避難所運営実施 	今年度も引き渡し訓練を行い、保護者の協力のもと、安全マップを作成更新できた。登校の見守りは保護者、地域、学校が三位一体となって実施し、交通事故ゼロで年度末を迎えることができた。大変にありがたい。	◎

学習支援	<ul style="list-style-type: none"> ・農園ボランティア 農体験の実施 ・図書ボランティア 朝の読み聞かせの実施 ・スポーツボランティア サッカー、ダンス、 タグラグビーの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み語り 全学年（週1） ・花づくり運動 ・サッカー教室 1, 2年 ・ダンス 低学年 ・タグラグビー 3, 4年 ・野球教室 5, 6年 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書ボランティア 毎水曜日に読み聞かせを、大谷田まつりと1年体験授業ではパネルシアターをそれぞれ実施 ・スポーツボランティア等 体力テスト、サッカー、ダンス、タグラグビー、野球教室、ボッチャの実施 ・当初には明記しなかった方々から多大な学習支援をいただいた。中川公園、区民事務所、東和図書館、第12中学校、長門小学校、中川東小学校、隅田学園、地域の商店、スポーツ推進委員、保護者の引率協力など。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当初計画にあった事業は、農体験を除きすべて実施できた。 ・農体験については中川公園内の畑が復活できるかにかかわる。校内のみになった場合はどのような内容で行うか、あるいは行わないか検討課題である。 	◎
------	---	---	--	---	---

重点的な取組事項－5		特別活動の充実			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
全学級の安定 児童の自主的実践的な態度を育てる		以下に示すとおり	児童アンケートより ・学校は楽しい：89% ・学級は居心地がよい：86% ・学級内で互いに助け合っている：83% 保護者アンケートより ・安心して通わせられる：93%	全学級が安定して学級経営できている。 特別活動を通してより良い学校学級づくりに児童を参画させたこと、児童に任せる活動ができたことが成果につながった。次年度も継続させていく。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
学級活動	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画の作成、及び実施 ・全12学級の安定 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の校内研究研修により全学級で共通実践 ・外部講師を招聘し授業改善を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通実践により活動内容（1）を全学級で実施 ・年間講師7回招聘 	足立区フューチャースクールに指定されたことで、年間講師を招聘した実践研究を進めることができた。次年度はCSインセンティブ予算を利用して講師報償費を捻出し研究を継続させる。	◎

<p>児童会活動</p>	<p>・全8委員会では児童の発案による創意工夫ある活動を実践する。</p>	<p>・児童会に関わる研修を全教員で行う。</p>	<p>・8委員会すべてで児童発信による活動を実践できた。主な児童発案の活動は次のとおり</p> <p>① 代表委員会 ○雨の日の遊びグッズ作成（ぬり絵、クイズ等） ○学習発表会幕間レクレーション ○他の学年やクラスのこともっと知りたいアンケート</p> <p>②集会委員会 ○リクエスト集会（全校児童の投票でゲーム内容を決めて実践）</p> <p>③保健給食委員会 ○もりもり給食の頑張りポイント</p> <p>④運動委員会 ○体力テストスタンプラリー</p> <p>⑤環境委員会 ○ごみの分別表示、○落ち葉拾い</p> <p>⑥栽培委員会 ○水やりボランティア募集 ○校内食別クイズラリー</p> <p>⑦図書委員会 ○学級文庫の配達 ○本の総選挙 ○しおり作り</p> <p>⑧放送委員会 ○給食の時間の番組放送</p>	<p>昨年度までの活動をすべてリセットしゼロからつくりあげていく指導は「待つ指導」であったが、全教員がそのことを理解し共通行動で実践することができた。</p> <p>特に高学年児童の参画意識、自主的実践的な態度を育成することができた。</p> <p>次年度も継続させていく。</p>	<p>◎</p>
<p>縦割り班活動</p>	<p>・年間指導計画の作成、及び実施</p>	<p>・相手、他者への思いやりのある態度を育てるために異年齢集団の班で年間を通して遊びで交流する。</p>	<p>・年間8回実施 1回30分にしたことで活動自体の充実と、振り返りの時間を設けられた。</p>	<p>特に振り返りができたことにより、良かったことや課題を共有し合うことができ、活動の改善を児童によって図ることができた。</p>	<p>◎</p>

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

- 特別活動（特に学級活動と児童会活動）の指導について全教員で実践研究に取り組み、よりよい学級づくり、学校づくりに児童が主体的に関わることができた。また、そのことにより、全学級の経営が安定し、児童も学級内で安心感のもと、生活することができた。
- 足立スタンダードの授業展開は全教員が理解し実践している。今年度も「虎の巻」を活用し児童が主体的に学習に向かう授業研究を小中連携で進めることができた。
- タブレット端末の利活用、ICT教育は全学年で取り組み、推進できた。ICT支援員の協力支援と、小中連携の授業研究が大きな推進力となった。
- 放課後の図書館開放を週2回から4回に増やすことができた。児童会のアイデアにより、貸出冊数が大きく伸びた。また、CSのインセンティブ予算で読書環境の充実を図った。
- 校内研究については、全学級の安定をより確かなもの、強固なものにしていくため、次年度も特別活動の実践研究を継続する。（研究授業は半分ほどに縮小）講師についてはCS予算をあてられるよう企画する。また、ICT教育推進に向けた実践研究研修も新たに行う。
- 体力向上の面では、体力テストを単なる測定に終わることのないよう、事前指導や意欲付け、データの活用を進めていく。その際、足立区スポーツ推進委員を講師として招聘する。また、ダンスや陸上、タグラグビー等の指導経験のある地域人材の活用をさらに推進する。
- 保護者との信頼関係・協働関係をより強固にしていく。そのためには、まず平時からの積極的な情報発信に努めていく。
- あいさつや正しい言葉遣いの定着については今後も保護者・地域・学校の三者協力で進めるが、児童自身の発案や児童の主体的な取組として行うよう工夫改善を図る。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

- ・児童の安全安心な校内外の生活について、今年度も、保護者、地域の皆様に多大なご支援とご協力をいただきました（登校時には保護者の方に4箇所、地域ボランティアの方には7箇所の交差点で安全の見守りと挨拶指導）。またPTA役員の皆様の放課後校外パトロールも実施していただきました。おかげ様で児童の登下校時の交通事故ゼロで1年を送ることができました。感謝申し上げます。
- ・いつでも気になることがあれば連絡相談をいただきたいとお伝えしてきました。我が子に限らず、子どもたちに関わる情報をたくさんの皆様からいただき共有することができました。おかげさまで学習面、生活面、友人関係等で大きな問題となる前に対応できることが多くありました。また、保護者の皆様には何度もお来校いただき、子どもたちの学校生活の様子を見ていただきお力添えをいただきました。心から感謝しております。保護者・地域との連携協力は不可欠です。引き続きよろしくお願いいたします。
- ・図書ボランティアの皆様には毎水曜日の読み語り等の他、大谷田まつりや新1年体験授業の際にもご協力いただきました。感謝申し上げます。

(3) その他（学校教育活動全般について）

- ・大谷田小の子どもたちの願い「よい学級（学校）であってほしい。（参画）」「友達と仲良く過ごしたい。（人間関係形成）」「自分を伸ばしたい。（自己実現）」を実現させるため、「学級活動」「児童会活動」を柱に共通実践してまいりました。児童の安心感、学級の安定こそが、学習に向かう力、心の醸成にもつながっていくと考えます。また、子どもたちのその姿は、保護者、地域の皆様にとっても、私たち教職員にとっても大きな喜び、幸せであります。皆が幸せな大谷田小学校になるよう、今後も教職員一丸となって努めます。